

[専門教育科目/看護の展開/老年看護学]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
老年看護援助論 I	NSP22_005	必修	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
佐野 宏一朗 他	414	k.sano	金曜日 9:00~10:30		
授業の目的・概要	1. 老年看護学概論で学習したことを踏まえ、加齢に伴う心身の変化や様々な健康問題をもつ高齢者への看護を考えることが出来る。 2. 人生の最終段階にある高齢者の看護とその家族への援助について理解する。 3. 高齢者とその家族の抱える問題や課題を発見し、高齢者を支える医療福祉制度について考える。 4. Teamsを活用して、1~3についての学びを深めると共に、演習で実際の看護を理解すること。				
学習上の助言	老年看護学概論と連動した講義であるため老年看護学概論の復習をしてから受講すること。授業中の質問については、Forms のフィードバックペーパーを積極的に活用すること。				
教科書	老年看護学概論(改訂2版)・「老いを生きる」を支えることとは/著:正木治恵、真田弘美/南江堂/2016 老年看護学技術(改訂2版)・最後までその人らしく生きることを支援する/著:正木治恵、真田弘美/南江堂/2016 [2冊指定]				
参考書	老年看護 病態・疾患論(第5版)/著:羽柴研二/医学書院/2018				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	高齢者の生理的特徴を踏まえ、健康状態が生活にどのように影響するか説明できる	NS(1)~(5)			
②	高齢者の個性を重視した看護について理解することができる	NS(1)~(5)			
③	人生の最終段階にある高齢者に必要な看護について考える事が出来る	NS(1)~(5)			
④	老年症候群や認知症など高齢者に特有な疾患をもつ高齢者に必要な看護について考える事が出来る	NS(1)~(5)			
⑤	高齢者ケアの場で派生している倫理的課題の実際を理解し、看護職に必要とされる役割について考える事が出来る	NS(1)~(5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	高齢者の生活と看護:加齢による変化と生活への影響について学び、高齢者総合機能評価など高齢者のアセスメントに用いられる指標について理解する。	同時双方向型授業	老年看護概論を復習し、加齢による心身の変化について要点をまとめる。		4
2	高齢者の生活と看護:高齢者の加齢に伴う身体機能・運動機能・感覚機能の変化を理解すると共に高齢者の活動と休息を支える看護の方法を理解する。	同時双方向型授業	加齢による運動機能や睡眠の変化と、それらが生活にもたらす影響について学んだ事をまとめる。		4
3	高齢者の生活と看護:高齢者の摂食嚥下機能の変化と食事介助方法を理解する。	同時双方向型授業	摂食嚥下の過程と加齢による嚥下機能の変化をまとめる。		4
4	高齢者の生活と看護:加齢に伴う排泄機能の変化と排泄行動への影響を理解し、看護援助の方法を理解する	同時双方向型授業	高齢者に特徴的な排泄障害とその看護について調べ、まとめる。		4
5	高齢者の生活と看護:高齢者の加齢に伴う皮膚の変化と皮膚/感染症を理解するとともに高齢者への清潔援助方法を理解する。	同時双方向型授業	高齢者への清潔援助の方法と必要な看護について調べる。褥瘡や高齢者に特徴的な皮膚疾患についてまとめる。		4
6	高齢者に特有な症状と看護:高齢者に特徴的な疾患と看護の要点を学ぶ。(心不全、誤嚥性肺炎、廃用症候群など)。	同時双方向型授業	呼吸・循環系の疾患を持つ高齢者の観察と看護の要点について調べたことをまとめる。		4
7	高齢者に特有な症状と看護:高齢者に特徴的な疾患と看護の要点を学ぶ(視覚・聴覚障害、うつ病・せん妄、パーキンソン病など)。	同時双方向型授業	せん妄について調べ、せん妄の要因やせん妄を予防するために必要な看護について調べる。		4
8	老年期に特有な症状と看護:認知症の看護について理解する。家族の介護負担を理解すると共に、認知症高齢者のその人らしさを大切に看護について考察する。	同時双方向型授業	認知症の病態や症状について 教科書で確認する。		4
9	急性期にある高齢者の看護	同時双方向型授業	急性期の高齢者患者に特徴的な看護の要点について調べ、理解したことをまとめる。		4
10	高齢者のリハビリテーション看護	同時双方向型授業	リハビリテーションの意味について調べると共に、高齢者のリハビリテーションに関わる職種について調べる。		4
11	老年期に特有な症状と看護:認知症の高齢者とのコミュニケーション、および看護の方法について学ぶ。	同時双方向型授業	認知症について学んだ上で、認知症の高齢者とのコミュニケーションおよび看護の関わりについてGWを通して考え、学びを共有する。		4
12	老年期に特有な症状と看護:GWで検討した内容をまとめて発表する。	同時双方向型授業			4

[専門教育科目/看護の展開/老年看護学]

13	看護技術演習:口腔機能・嚥下機能が低下した高齢者に対する看護援助演習を実施する。	演習	高齢者の摂食嚥下障害について復習する。	4					
14	看護技術演習:排泄ケアが必要な高齢者に対する援助技術。排泄用具の選定、および使用方法を学ぶ。	演習	高齢者の排泄機能障害と褥瘡について復習する。	4					
15	高齢者の終末期の看護エンドオブライフケアフィードバック、意見交換は授業内に実施する。	同時双方向型授業	エンドオブライフケアについて調べたことをまとめる。	4					
試	定期試験								
達成度評価									
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計		
		80	20	0	0	0	100		
総合力指標	知識・技術力	60	10	0	0	0	70		
	思考・推論・創造する力	20	5	0	0	0	25		
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0		
	発表・表現伝達する力	0	5	0	0	0	5		
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0		
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0		
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0		
評価のポイント					フィードバックの方法				
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点							
試験	①	✓	定期試験の範囲は講義全体を対象として出題し 80 点満点とする。講義中に示した要点を中心に出题する。				試験問題の要点について後日説明する。		
	②	✓							
	③	✓							
	④	✓							
	⑤	✓							
レポート	①	✓	レポート内容の適切性、課題に沿っているか。知識・技術力を 10%、思考・推論・創造する力 5%、フォーム、文章構成力、適切な文章表現、提出期限までに提出しているかを 5%の配分で評価する。				最終講義の際にフィードバックをする。		
	②	✓							
	③	✓							
	④	✓							
	⑤	✓							
成果発表	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
ポートフォリオ	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
その他	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
備 考									
担当教員:◎佐野 宏一朗、山崎 さやか 特別講師:森田 祐代									
教員の実務経験:病院における看護師実務経験 実践的授業の内容: Teams を活用することで高齢者への日常生活援助技術を学び、さらに実際の看護で生かすことが出来る技術を習得できるよう学内で演習を実施します。この講義は Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨します。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性があります。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めません。 本科目の単位取得は、老年看護援助論Ⅱの履修前提条件です。毎回の講義内容を、配布資料をもとに復習しておくようにしてください。授業で紹介する参考書や教科書等活用し理解を深めてください。看護技術演習中の携帯電話、スマートフォンの使用は禁止します。主体的に学習継続していくことを期待します。									